

# 〈中学校国語部会〉

## 研究主題・副主題

「読むこと」の領域における効果的な指導の工夫

— 個に応じた指導の充実を図る指導内容・指導方法の研究開発 —

## 研究の概要

学習指導要領では、「読むこと」の指導に関わって「様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力」「目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力」等を身に付けさせることが求められている。これらの能力をはぐくむためには、生徒の主体的な活動を組織する必要がある。

そこで、本研究では、「読むこと」の領域において、基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導の一層の充実を図るため、個に応じた指導の在り方、生徒が意欲的に取り組む授業の工夫等について研究を行った。

### I 研究目的

「読むこと」の指導において、個に応じた指導の在り方、生徒が意欲的に取り組む授業の工夫等を明らかにし、一人一人の学習状況に応じた指導内容・指導方法の改善・充実を図る。

### II 研究の方法・内容

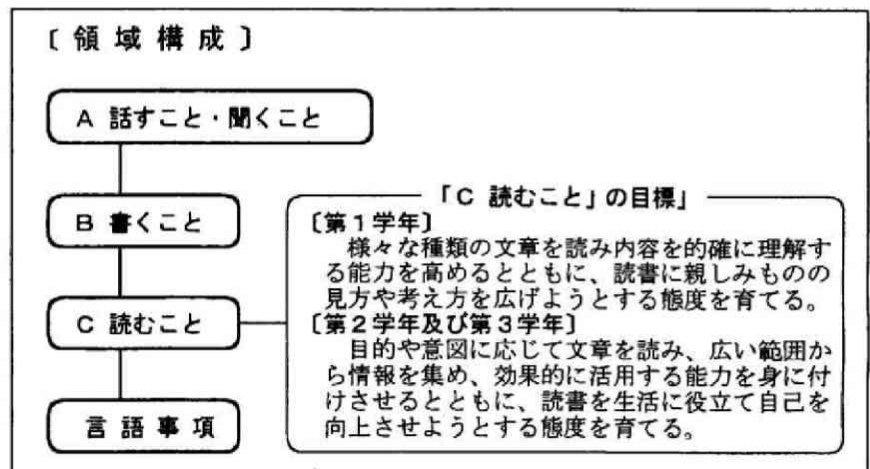
#### 1 育成する言語能力の明確化

学習指導要領の「読むこと」における内容（以下「指導事項」と略記）11項目のうち、その単元で指導するのはどの指導事項かを明確にする。このように、育成する言語能力を明確にした上で授業を構想するとともに、個々の生徒の学習の実現状況を把握する手だてを工夫し、指導過程に位置付ける。また、これらを生徒に明示することで、学習への取組が主体的・意欲的になり、自己評価や相互評価の際も視点が明らかになる。

#### 2 自己評価・相互評価の活用

授業中や授業後に、ワークシート、相互評価表、評価カード、観察、作品、ノートなどを活用し、目標に対する生徒一人一人の学習状況やつまづきをとらえる評価を実施する。

また、教師による評価だけでなく、生徒自身が自らの学習状況を確認できるものになるよう工夫する。目標に準拠した評価は、生徒一人一人の目標の実現状況を的確に把握し、学習状況の改善に生かしていくことが重要である。



### 3 個に応じた指導の工夫

個に応じた指導を進めていくために、生徒個々の学習状況を的確に把握し、「個別指導や理解の程度に応じた指導」や「教材の工夫」など指導方法の改善を図る。また、評価結果に応じた補充的な学習や発展的な学習についてあらかじめ計画をたてておく。特に、学習の実現状況が「努力を要する」状況（C）と判断された生徒には、「おおむね満足できる」状況（B）になるように、その生徒が意欲をもち、具体的な課題を意識できるよう適切な指導・支援を講じることが必要である。具体的には、次のようなことがあげられる。

#### ア 自己評価・相互評価の活用

生徒が自己評価や相互評価を行い、自分で学習状況に気付き、新たに意欲や課題をもって自力で取り組もうとする場面を設定する。

#### イ 指導形態の工夫

少人数指導やチーム・ティーチングなど、指導形態を工夫する。

#### ウ 教師による肯定的なコメント

評価結果に即して、教師が、授業中の机間指導などで「ほめる」「励ます」「助言する」をしたり、ワークシートやノートに適切なコメントを記入したりする。

#### エ 繰り返しの学習

次時の導入場面で既習事項を確認する時間を設定したり、既習のワークシートを再度活用したりするなど、学習活動の改善を図る。

#### オ 補充の指導

授業中または特別な時間を設定し、補充指導を行う。

### 4 学習意欲を高める工夫

生徒一人一人が意欲的に学習に取り組むためには、生徒自らが学習目標をもち、その達成を自ら判断できなくてはならない。そのために、生徒にとって魅力的な学習活動、学習課題を用意し、何よりも、そこで付けるべき力を明確にして目標をもたせ、そのための指導・助言を教師が行うことが大切である。具体的には、次のようなことがあげられる。

#### ア 補助資料の工夫

資料を複数用意し、教科書教材との比べ読みを行うことで、教材の内容について興味・関心をもって読み取ることができる。

#### イ 学習活動の工夫

ディベートや意見交換会などを行うことによって、読み取った内容を根拠にしながら自分の意見を発表することで学習の目的が明確になり、意欲的に学習に取り組むことができる。

#### ウ ワークシートの工夫

個人的な自由な読みを重視するように、ワークシートを工夫する。この工夫により、自己の課題が明らかになり、また課題解決に向けて、深く考えながら取り組むことができる。

### Ⅲ 指導事例

#### 【事例1】ディベートの手法を取り入れた指導

本事例では、「読むこと」における説明的文章の指導で、文章の内容を正確にとらえたり、筆者のものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げる力を育成するため、個に応じた指導や生徒の主体的な活動を促すことを意識し、ディベートの手法を取り入れた指導を工夫する。

(1) 教材名 「玄関扉」 渡辺武信／作、三省堂（第1学年）

(2) 授業計画（7時間扱い）

次 時	主な学習活動	評 価【観点の略】	評価方法
第1次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>形式段落ごとに本文を読む。</li> <li>本文の内容をワークシートにまとめる。</li> <li>語句の意味を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文の内容をまとめることができる。【読】</li> </ul>	ワークシート 観察
第2次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「外開き」「内開き」の特徴やよさを、本文、資料から探して抜き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「外開き」「内開き」の特徴について書いてある部分を、本文や資料からとらえている。【読】</li> </ul>	準備シート 1 観察
第3次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディベートの準備として、「立論」「反論」「質問」などをまとめる。</li> <li>根拠の確認をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に自分の意見をまとめている。【関】</li> <li>自分たちの意見の中心になる根拠をとらえている。【読】</li> </ul>	準備シート2 ～5 観察
第4次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディベートを行う。</li> <li>ディベートを通じて、「内開き」「外開き」の違いや特徴を探す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お互いの主張を通じて、「外開き」「内開き」の違いや特徴を理解している。【読】</li> </ul>	記録用紙 発言 観察
第5次 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「玄関扉」以外で、身近なところにある文化の違いを見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なところにある文化の違いをとらえている。【読】</li> </ul>	ワークシート 観察

(3) 指導上の工夫

#### ①個に応じた指導の工夫

ディベートの手法を用いるに当たり、いくつかのグループを構成し、グループ員一人一人に「立論」「質問」「応答」「結論」「記録」という役割をもたせた。立場や役割を明確にすることで、自分の意見をもつことに目標をおいた。日常の授業では補充的な手だてを必要としている生徒も、自分の役割が明確になるため、取り組みやすくなる。また、グルー

プ員が協力して文章をまとめたり、相互にアドバイスをしたりという場面が期待される。さらに、教師が、生徒の活動を観察しながら、学習状況に応じた個別指導を丁寧に行うことができ、教材とのかかわりを深めることも可能となる。

## ②複数の資料の比較

教科書の教材だけでなく、関連した資料を用いることで、より一層内容の理解を深めることができる。特に、日常生活の中での「内開き」「外開き」の具体的な事例や出来事が載っている文章は、生徒にとって身近でわかりやすく、ディベートの際、根拠としてあげた生徒も多い。また、資料の中から「内開き」「外開き」それぞれの特徴が書いてある部分を探し出し、色を変えて傍線を引き、グループ員同士で確認させることで、様々な視点からの多角的な読みが可能となる。

## (4) 本時の指導計画

	主な学習活動	指導上の工夫	評価の方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディベートのやり方を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内容を理解するためにディベートを行うことを念押しする。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>「外開き」の主張と「内開き」の主張というテーマでディベートを行う。</li> <li>(1)「外開き」派立論</li> <li>(2)「内開き」派立論</li> <li>(3)相手への反論、反論への答え準備</li> <li>(4)「内開き」派反論①</li> <li>(5)「外開き」派答え①</li> <li>(6)「外開き」派反論①</li> <li>(7)「内開き」派答え①</li> <li>(8)「内開き」派反論②</li> <li>(9)「外開き」派答え②</li> <li>(10)「外開き」派反論②</li> <li>(11)「内開き」派答え②</li> <li>(12)結論準備</li> <li>(13)「内開き」派結論</li> <li>(14)「外開き」派結論</li> <li>(15)判定準備</li> <li>(16)判定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会は教師が行う。</li> <li>「外開き」派（「外開き」の方がよい）と、「内開き」派（「内開き」の方がよい）のそれぞれの立場で根拠を明らかにして意見を述べるように指示する。</li> <li>予測していなかった意見が出たときの対応については、グループで考えさせる。</li> <li>記録用紙の記入について、自分たちの派の参考になるような意見を中心に、記録するようにさせる。</li> <li>判定員にはどちらの派の主張が説得力があるかを、判定させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎グループでの相談のときに、他の生徒の意見を参考にさせ、具体例を用いてアドバイスする。</li> <li>発表</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディベートを通して「外開き」と「内開き」の違いや特徴がつかめたかを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次時の学習の予告をする。</li> </ul>	

## (5) 生徒の変容

今回の授業はグループ単位での学習活動を中心に行った。グループの中で係を分担したことで、自分の役割が明らかになり、意見をまとめることが苦手な生徒も、同じグループの生徒の協力を得て、学習を進めることができた。こうして、少しずつ意欲や関心を高めることができた生徒は、当日のディベートで、自信をもって自分の意見を発表していた。

本授業の後、『外開き』『内開き』のどちらを支持するか書き、その根拠を教科書や資料から探し、できるだけ多く抜き出さない。」という課題を示し、意見を書かせたところ、28人中24人が根拠を二つ以上探して意見をまとめることができた。今回の学習を通して、教科書や資料の内容をほぼ読み取ることができたと考えられる。

### 〈主な生徒意見例〉

- 「内開き」を支持します。なぜかという、内開きだから助かったという例が二つもあったからです。一つ目は「ハイジャックから身を守る」、二つ目は「洪水から身を守った」ということです。「外開き」だと、「履き物にあたらぬ」などとても良い点がありましたが、「内開き」の方が早く身を守るということで、「内開き」の方がいいと思います。
- 僕は「内開き」の方がいいと思います。なぜなら、資料2に「内開きのドアというのは、侵入者を防ぐという意味ももっているのである」と書いてあるように、近くに重い物を置いていけば、鍵を壊されても外敵の侵入を防げるからです。二つ目は、資料3に「地下室のドアがもし内開きであったならば、その男性は或いは助かっていたかもしれません」と書いてあるように、洪水の水圧で閉じこめられて死んでしまったなど、内開きなら何の被害もなく、死なないですんだので、内開きの方がいいと思います。
- 私は「外開き」派です。なぜなら、「雨水を防げる」(資料1)「脱ぐくつにあたらぬ」(資料2)「玄関がせまくても平気」(教科書)「土間が洗しやすい」(教科書)「爆風をさけることができる」(資料3)「すきま風が入らない」(教科書)など日本人の習慣に合った工夫がされていて、日本人に合っていると思うから、外開きがいいと思います。

## (6) 考察

ディベートは合計2回行った。1回目と2回目で座席の配置を変えたところ、生徒同士での相談がしやすくなり、ディベートを円滑に行うことができた。ディベートを行ったことで、対抗意識をもつグループが出てきて、生徒の関心や意欲が高まった。また、同じグループでも、自分たちの気付かなかった根拠や意見が出てくることもあり、「内開き」「外開き」それぞれの特徴が一層明確になった。

今回の授業では「読み取り」が中心で、ディベートはあくまでもそのための手段として用いたが、生徒たちは盛り上がってくると勝敗に気を取られる傾向もあるので、教師が留意する必要がある。ディベートのやり方にこだわる必要はなく、自由に意見交換ができるような方法も考えられる。



## 【事例2】二つの文章を比べ読みする指導

本事例では、同じ視点をもって説明的文章と童話という二つの文章を比べ読みし、書き手の意図を意識して自分の考えを深める力を育成するため、自然と人間のかかわりについて注目させるなど、目的と必要に応じた多様な読みの指導を工夫する。

なお、「魚を育てる森」を中心教材にし「なめとこ山の熊」を補助教材としたのは、前者の「自然界は、微妙なバランスを保ちながら、互いに関係し合って存在している。そのことを肝に銘じて、わたしたちは、自然の状態をよく知り、できるかぎりバランスを壊さないように考えるべきであろう。」という筆者の考えと、後者の「生活のため熊を獲ることによって最後は熊に殺されてしまうが、熊は決して主人公のことを嫌いではなかった。」という作者、宮澤賢治の自然に対するメッセージに共通する部分があるからである。この共通部分と、二つの作品の書き手の表現や表現方法が生む効果の違いの読み取りを通して、主体的に作品とかかわろうとする姿勢や、進んで読書に親しむ態度を育てるよう改善を図った事例である。

- (1) 教材名            中心教材「魚を育てる森」松永勝彦／作、光村図書（第1学年）  
                         補助教材「なめとこ山の熊」宮澤賢治／作

### (2) 授業計画

#### 《なめとこ山の熊》（4時間扱い）

次 時	主な学習活動	評 価【観点の略】	評価方法
第1次 (1時間)	・本文を読む。 ・意味調べをする。	・音読を通して語感を豊かにする。【読】	ノート
第2次 (1時間)	・ワークシートに書く。	・情景描写や表現の仕方に注意して読んでいる。【読】	ワークシート
第3次 (1時間)	・ワークシートに書く。	・人物描写に注意しながら、作者の考え方をとらえている。【読】	ワークシート
第4次 (1時間)	・ワークシートに、感想を書く。	・読み取ったことをもとに感想文を書いている。【書】	ワークシート 感想文

#### 《魚を育てる森》（5時間扱い）

次 時	主な学習活動	評 価【観点の略】	評価方法
第1次 (1時間)	・黙読する。音読する。 ・意味調べをする。	・語句の意味を正確にとらえ、理解している。【読】	観察
第2次 (1時間)	・疑問（森は海にとってどのような役割を果たしているか）と結論部分を見つける。	・文章の構成、展開を考えながら内容を理解している。【読】	ワークシート

次 時	主な学習活動	評 価【観点の略】	評価方法
第3次 (1時間)	・腐植土の役割から森と海 の関係を読み取る。	・文章の構成、展開を考えな がら内容をとらえている。【読】	ワークシート
第4次 (1時間)	・二つの文章を比較して「自 然と人間の関係」に関し て自分の意見をもつ。	・「自然と人間の関係」につ いて書き手の考え方をと らえている。【読】 ・自然や環境に関する自分の考え 方を明らかにしている。【読】	ワークシート
第5次 (1時間)	・自然、環境をテーマにし た作品をもちより紹介す る。	・自然や環境に興味・関心 をもち、進んで読書に親 しんでいる。【関】	発表

### (3) 指導上の工夫

個に応じた指導を充実させるため、比べ読みが効果的に行われるように、ワークシートを工夫する。さらに、二つの作品を読み比べた後、読書活動がより活発になるように、自然をテーマにした作品を進んで発見し紹介させるなど、発展的学習の工夫も行う。

#### ①ワークシートの工夫

補助教材「なめとこ山の熊」を自ら進んで読み取るために、①情景描写と、②人物描写（主人公の小十郎）を探し出させる。各共通部分から小十郎（作者）は自然をどのように考えているのかを書かせ、個人の自由な読書を重視するようにワークシートを工夫する。

中心教材「魚を育てる森」では疑問（緑がよみがえることで、失われた漁場がもどったのはなぜなのだろうか。森は海にとってどのような役割を果たしているのだろうか。）を解決するため、キーワード（森が消え、海が死んだ・腐植土の具体的な役割・食物連鎖）を中心に読み取らせるようにワークシートを工夫する。

また、二つの作品を比較させ、自然と人間の関係（熊と小十郎の関係）に絞って共通部分や違いを発見させるようなワークシートを工夫する。例としては、次のとおりである。

- 人間が生きるために何かを犠牲にしている。
- 人間が生きるために自然を必要としている。
- 死や消えるという言葉が使われている。
- 食物連鎖、きつねけんなど生きるサイクルがある。
- 「なめとこ山の熊」では、自然を考えている人間の存在があり、「魚を育てる森」では、人間がこれから考えようとしている。

#### ②発展学習の工夫

学習したことをもとに、5時間目に自然と人間の関係についての作品を集めさせ、理由を含めて紹介させる。自然に関する作品は、本だけでなく新聞、アニメーション、テレビ番組、映画など幅広く選ばせることとする。

なお、生徒は次のような作品を紹介した。その際、自然に対する自分なりの考えをもって探したので、作品を選んだ理由を明確にすることができた。

〈主な作品例〉

- 「子どもたちが地球を救う50の方法」ブロンズ新社  
(環境の問題とそれについて自分がどうすればよいか書かれているから)
- 「水の伝説 夜の神話」たつみや章/作、講談社  
(人間と自然の関係を考えるきっかけとなる山の精霊や山姫が出てくるから)
- 「千年五人姉妹」福永玲三/作、講談社  
(自然が人間に自然を壊さないように訴えているから)
- 「もののけ姫」「風の谷のナウシカ」宮崎駿夫/作  
(人間が自然を破壊するのを食い止めるため、共存の関係を人間に訴えるから)
- 「デイ・アフター・トゥモロー」(映画)  
(地球温暖化が進み絶対零度の世界になったらどうなるかと考えさせるから)
- 「環境と公害」東京都教育委員会  
(今すぐできることそれは地球を救う第一歩とあったから)
- 「指輪物語 旅の仲間」トルーキン/作  
(サルマンが欲望のため森林を破壊して、木と人間の戦いが描かれているから)
- 「森へ」星野道夫/作、福音館  
(アラスカの自然のすごさ、そこで生きる動物・魚・川のすごさ)

(4) 本時の指導計画

	主な学習活動	指導上の工夫	評価の方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の目標を確認する。</li> <li>・書き手の考え方を理解する。</li> <li>・自然に関する考えをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の目標を明確にする。</li> </ul>	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なめとこ山の熊」で人間と自然の関係を書き手がどのように考えているか読み取らる。</li> <li>・「なめとこ山の熊」「魚を育てる森」で書き手が自然と人間の間をどう考えているかまとめる。</li> <li>・二つの作品の共通点や違いを「自然と人間の間」を中心に話し合いながら見つける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小十郎が熊の言葉をわかるのはなぜか」を切り口にして考えさせる。</li> <li>・「なめとこ山の熊」は「熊はなぜ小十郎が好きなのか」を切り口に考えさせる。</li> <li>・各グループで司会者を決め、話し合いが円滑にいくようにする。</li> <li>・意見はワークシートに書かせる。</li> </ul>	<p>ワークシート</p> <p>ワークシート</p> <p>観察</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの作品をもとに自然と人間の間について自分の意見をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをワークシートに書かせる。</li> <li>・根拠を二つの作品から見つけさせる。</li> </ul>	ワークシート



## (5) 生徒の変容

一つの作品をじっくり読むことも大切だが、読み比べをすることによって生徒は予想以上に言葉にこだわりをもつことができた。「二つの作品には死、消えるなどの表現がある。生きるために小十郎は熊を殺し開拓農民は生きるために森林を伐採するなどの共通部分もある。」など、書き手の思いや意図を考えながら一つ一つの言葉を理解しようとした。

また、生徒は、二つの作品を通して自然と人間の関係について本文の表現を根拠にして、自分の考えをもつことができた（下欄参照）。このように、自然に関して環境保全や自然との共存はだれでも容易に考えることができるが、それぞれの個々の読みを通して自分の考えを、根拠を明らかにしてもつことができたのは重要である。さらに、自然に対する自分の意見をもちながら様々な作品を探ることができたことは、日常生活で進んで読むことに取り組むきっかけになった。

### 〈主な作品例〉

- 人間は自然がなくては生きていけない。自然に頼りすぎていてもだめ。（伐採や破壊）生きていくため理解していくことが必要なのだ。
- 人間は色々な面で思っている以上に自然に影響されている。（小十郎と熊の関係、森がなくなって魚が来なくなってしまった人たちなど）だから自然のことを考えなくてはならない。
- 人間の考えだけで自然の生き物の命を奪わない方がいい。

## (6) 考察

ジャンルの違う説明文と童話（文学的文章）で、自然と人間のかかわりという視点に立ち、読み比べると、生徒は新鮮な発見をすることができた。また、言葉にこだわりをもつことができるようになり、比喩表現などの表現も注意深く読み取ることができた。

比べ読みをする際の教材選定に当たっては、学習の目標に照らし合わせて十分吟味する必要がある。特に、補助教材の選定にあたっては、育てたい言語能力に即して、何を目的に比べ読みをするのか明確にして選定することが必要である。

比べ読みをするときの順番は、作品を理解する上で大きな影響がある。本時では、宮澤賢治の「なめとこ山の熊」を先に読んだことで、生徒は抵抗なく物語の世界に入っていくことができた。熊と小十郎の関係を通して自然と人間の共生について先に考えを深めたため、中心教材の「魚を育てる森」の読み取りが容易になり「森が消え、海が死んだ」などの表現も理解しやすくなった。

このように、ジャンルの違う文章を比べても生徒は柔軟に共通部分や違いを読み取って自分の考えを深めていくことができた。発達段階に応じて、より深く読んでいくことで、書き手の思いに一層近づくと考えられる。さらに、作品の紹介も広い視野にたって選択することが可能となる。

#### IV 研究のまとめ

本研究では、「読むこと」の領域において、基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導の一層の充実を図るため、個に応じた指導の在り方、生徒が意欲的に取り組む授業の工夫等について研究を行った結果として、次のようなことがあげられる。

##### 1 効果的な指導の工夫

- (1) 「書き手のものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くする」能力を育成するためには、①文章の中で疑問をもった箇所や特に心に残った箇所について自分なりの考えをもち、それを自分の言葉で表現すること、②複数の作品を読み比べたり、複数の作品から特徴のある表現を見つけて発表し合ったりするなど、できるだけ多くの作品にふれることができるようにすること、③叙述や展開に即して、内容を的確に理解すること、などの学習指導の工夫が必要である。
- (2) 「二つの文章を読み比べ、文章の表現に即して、書き手の意図を読み取る」能力を育成するためには、①複数の文章を取り上げる際には、育てたい言語能力を明確にし、学習の目的や取り組むべき課題に即して生徒の学習意欲を喚起すること、②複数の文章を比べながら読ませる際には、あらかじめ比較する視点を明確にして、文章の共通点や相違点などに気付かせるようにすること、③重要語句をもとに、文章を全体的にとらえるような学習活動を行うこと、などの学習指導の工夫が必要である。

##### 2 読書指導の充実

読書に親しむ態度を育成するには、国語科の授業を通して、生徒の読書への関心を高め、読書を日常生活に根付かせるような指導を繰り返すことが大切である。「読むこと」の授業では、読解のみに終始することなく、学校図書館等を活用して関連図書への読書に発展するよう指導する必要がある。また、国語科の教師は、生徒の発達段階や読書への関心に応じて適切な図書を薦められるように、日ごろよりふさわしい図書を探しておくことなども求められる。

##### 3 「指導と評価の計画」の作成

「読む能力」を中学3年間で確実に身に付けさせるためには、「指導と評価の計画」を作成し、指導と評価の一体化を図ることが大切である。

指導計画では、育てたい言語能力や指導のねらいを明確にするとともに、学習指導要領に示されている指導事項を、いつ、どのように指導するのかを計画的に位置付けておく必要がある。

評価計画では、学習活動に即した具体的な評価規準を踏まえ、多様な評価方法を工夫するとともに、生徒へのフィードバックの在り方についても十分に工夫する必要がある。

##### 参考資料

- 「玄関の扉は、内開き、外開き？」矩計（かなばかり）／作（2003年8月）
- 「玄関扉に見る日本文化論」三宅善信／著（2002年4月）
- 『外開き文化の悲劇』—ヨーロッパやアメリカではドアは内開きが常識

鈴木伸二／作（1999年10月）